

本庄市立小・中学校の 教育環境の向上について

HONJO CITY



生徒説明版



2

はじめに

HONJO CITY



全国的な少子化による学校の小規模化が進行する中、本庄市教育委員会では、将来の子どもたちにとって望ましい学習環境、地域の実情に応じた学校教育の在り方や学校規模について検討を重ねてきました。

また、本庄市の学校施設は昭和40年代から平成初頭にかけて建築されたものが多く、老朽化が進行する中、一斉に改修の時期を迎えています。

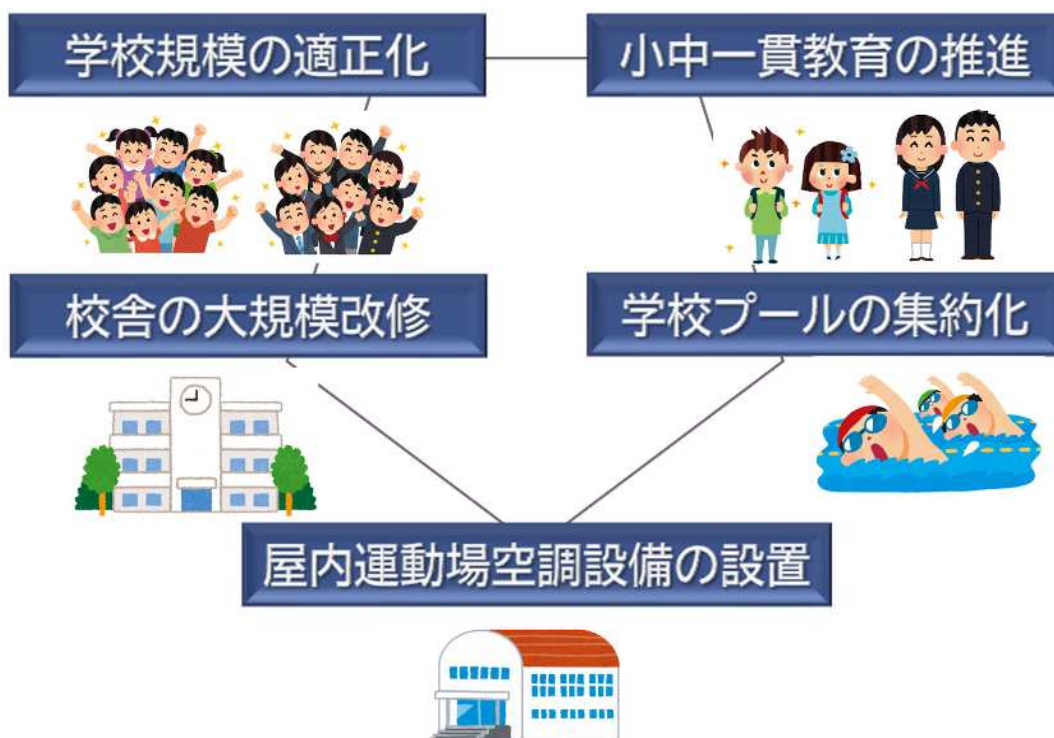
本庄市教育委員会では、児童生徒が自らの人生を切り開き、自立できるよう「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育を推進するために、子どもたちの教育環境の整備について、最優先に進めていきたいと考えています。

小・中学校の教育環境の向上について

HONJO CITY



《教育環境の向上を目的とした、5つの整備》



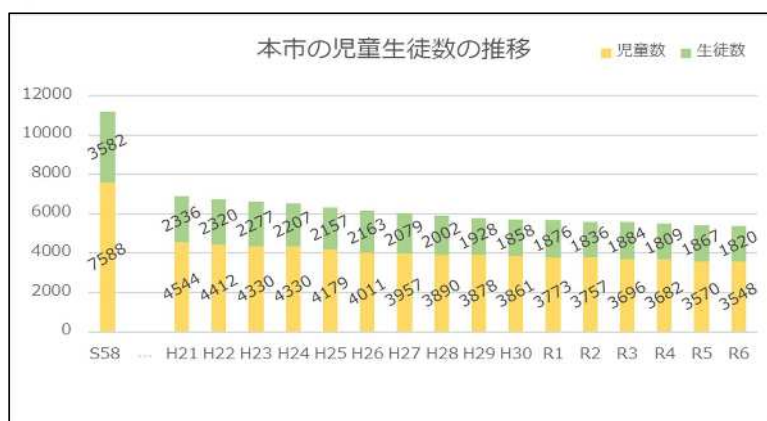
学校規模の適正化①

HONJO CITY



○これまでの児童生徒数

児童生徒数は**昭和58年度**のピーク時から半数以下となっています。また、直近の15年間では、児童生徒数は約22%減少しています。



○今後の児童数

いずれの小学校でもさらなる児童数の減少が見込まれます。

特に、児童数が少ない学校では、将来推計よりも**早いペースで児童数が減少**しています。

児童数の推計	住民基本台帳による児童数※1		将来推計による児童数※2				
	R6	R12	R12	R17	R22	R27	R32
本庄東小学校	627	539	530	489	465	440	401
本庄西小学校	262	205	219	201	190	181	163
藤田小学校	84	75	92	85	80	77	70
仁手小学校	45	39	42	39	38	35	31
旭小学校	249	221	198	182	171	160	149
北泉小学校	419	325	269	254	238	216	198
本庄南小学校	407	338	359	334	310	286	266
中央小学校	535	463	401	370	350	327	301
児玉小学校	453	281	280	268	251	236	221
金屋小学校	222	154	196	182	170	162	151
秋平小学校	91	64	83	78	74	70	65
共和小学校	154	117	144	135	124	116	103

※1 R6.5.1時点の住民基本台帳に登録されている子どもの数を学校区分に抽出して算出

※2 国立社会保障・人口問題研究所公表の推計値を採用して算出

学校規模の適正化②

HONJO CITY



○学級数の減少

今後、児童数の減少とともに、**複式学級の数や単学級の学校が増えていく**ことが予測されます。

令和5年度

学校規模	小規模校		標準規模校	
	複式学級	単学級	クラス替えが可能な学級	
小学校(通常学級数)	仁手小学校(5)	藤田小学校(6) 秋平小学校(6) 共和小学校(6) 金屋小学校(7) 旭小学校(11)	本庄西小学校(12) 児玉小学校(13) 本庄東小学校(17)	本庄南小学校(13) 北泉小学校(15) 中央小学校(18)



令和17年度(将来推計児童数より算出)

学校規模	小規模校		標準規模校	
	複式学級	単学級	クラス替えが可能な学級	
小学校(通常学級数)	仁手小学校(4)	藤田小学校(6) 秋平小学校(6) 共和小学校(6) 金屋小学校(6) 旭小学校(6) 本庄西小学校(6)	児玉小学校(12) 本庄東小学校(18)	本庄南小学校(12) 北泉小学校(12) 中央小学校(12)

※赤字は学級数が減少する学校

学校規模の適正化③

HONJO CITY



○小規模の学校の特徴と課題

特徴

- 児童生徒の人間関係が深まりやすい
- 他の学年との交流が生まれやすい
- 学校行事等で児童生徒の活躍する場が多くなる
- 児童生徒数が少ないため、きめ細かな指導が行いやすい



課題

- 日々の学校生活の中で、多様な考え方や価値観に出会い、社会性や協調性、コミュニケーション能力を伸ばす機会が限られる
- クラス替えが困難なため、人間関係の固定化や男女比の偏りが生じやすい
- クラブ活動・部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい
- 教員数が少ないため、一人当たりの負担が大きい



学校規模の適正化④

HONJO CITY



○小・中学校の適正規模及び適正配置

本庄市では小・中学校の適正な規模について、保護者や教員を対象としたアンケート結果や、国の手引を参考に審議し、「本庄市立小・中学校の適正規模及び適正配置の基本的な考え方(案)」を作成しました。

【本庄市における小・中学校の適正規模の基本的な考え方】

望ましい規模を小学校は全学年でクラス替えができる「1学年2学級以上」、中学校は教科担任が学習指導できる「9学級以上」とする。

小学校:各学年2学級～3学級(全学年合計12学級～18学級)

中学校:各学年3学級～6学級(全学年合計9学級～18学級)

【本庄市における小・中学校の適正配置の基本的な考え方】

通学距離:小学校はおおむね4Km以内

:中学校はおおむね6Km以内

通学時間:おおむね1時間以内

ただし、地域の実情に応じて、スクールバス等の通学手段を検討する。

学校規模の適正化⑤

HONJO CITY



○学校規模の適正化(案)

「本庄市立小・中学校の適正規模及び適正配置の基本的な考え方」に基づいて、①中学校区単位で②将来の児童数を考慮したうえで、複式学級の解消を優先して学校規模の適正化を図ります。

中学校区	小学校	適正化内容	統合場所	統合年度
本庄東中学校	本庄東小学校 藤田小学校 仁手小学校	3校の統合	本庄東小学校	令和13年度
本庄西中学校	本庄西小学校 旭小学校	2校の統合	本庄西小学校	令和21年度
本庄南中学校	北泉小学校 本庄南小学校 中央小学校	現状維持	-	-
児玉中学校	児玉小学校 金屋小学校 秋平小学校 (本泉小学校) 共和小学校	4校(5校) の統合	未定 ※	令和18年度

※児玉小学校を増築する場合と旧児玉高等学校跡地を使用する場合を比較検討します。

学校規模の適正化⑥

HONJO CITY



○通学用バスの導入

統合により学校が変わる児童に通学用バスを用意します。

中学校区	該当小学校区			
本庄東中学校	藤田小学校		仁手小学校	
本庄西中学校	旭小学校			
児玉中学校※	児玉小学校	金屋小学校	秋平小学校 (本泉小学校)	共和小学校

※ 児玉中学校区の小学校は使用する校舎の場所によって変更となります。

○停留所

各自治会に1か所を目途に設置し、停留所までは通学班で登校を想定。



校舎の大規模改修①

HONJO CITY



経年により老朽化した学校施設を将来にわたって長く使い続けるため、**長寿命化対策**を実施するとともに、建物の機能を現在の学校が求められている水準まで向上させる工事を行います。



校舎の大規模改修②

HONJO CITY



○今後の改修予定

学校施設の大規模改修は、現在、本庄西中学校で実施しています。

本庄西中学校の改修終了後、本庄南中学校を改修する予定です。

小学校の改修時期については、築年数、劣化状況、改修履歴などの特性に加え、学校の統合が予定されている校舎は、統合に合わせて設定します。

○改修スケジュール

建物調査・設計

工事

中学校区	改修対象校	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20
本庄東中学校	本庄東小学校														
本庄西中学校	本庄西小学校														
児玉中学校	未定														
本庄南中学校	北泉小学校														
	本庄南小学校														
	中央小学校														
	本庄南中学校														

学校プールの集約化

HONJO CITY



○学校プールの課題

- ① プール施設の老朽化
- ② 天候等の制約が多く、計画的な実施が困難
- ③ プールの管理運営にかかる教職員の負担が大きい



○屋内温水プールによる水泳授業

公立小学校の学校プールを集約化し、送迎バスによる校外授業
(公立中学校のプールは当面の間は各学校に維持)

○使用開始年度（予定）

令和11年度

○整備場所

児玉郡市広域市町村圏組合事務所跡地
共和公民館敷地



屋内運動場空調設備の設置

HONJO CITY



○暑さ対策

環境省から熱中症警戒アラートが発表された場合は、全面的に運動を控えるなどの安全対策をしていますが、近年の暑さを考慮すると**熱中症対策**として空調設備設置の必要性が高まっています。

○避難所としての利用

学校の屋内運動場は、災害発生時に地域の避難所としての利用も想定されるため、**防災機能強化の観点**からも、空調設備の設置は望ましいものになります。

○設置工事年度(予定)

各中学校 令和7年度

○使用開始年度(予定)

各中学校 令和8年度



※小学校の設置については、中学校での空調効果の検証などを踏まえ、検討していきます。

小中一貫教育の推進①

HONJO CITY



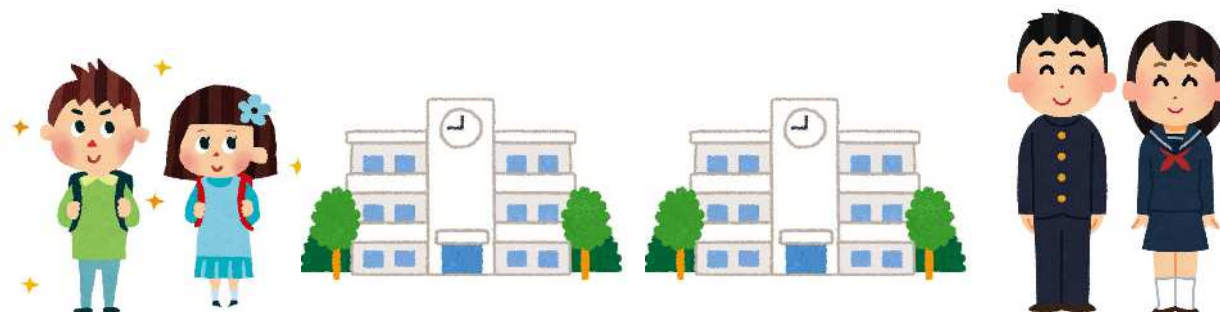
○小中一貫教育とは

小・中学校がお互いの学校の情報交換や児童生徒の交流を行い、小学校から中学校へスムーズに進学できることを目指す「**小中連携教育**」のうち、小・中学校が**9年間の学習内容を計画して**行う教育です。

○小中一貫教育のねらい

小中学校9年間の学び(学習面)と育ち(生活面)の連続性を重視することによる、児童生徒の**学習意欲の向上**と**中1ギャップの解消**です。

小学校と中学校の教育活動の違いなどによる学習意欲の低下や、不登校の原因となっている中一ギャップの解消を目指して取り組みます。





小中一貫教育の推進②

○小中一貫教育の型

各中学校区における小・中学校の場所に合わせた、より良い小中一貫教育を検討します。また、最適な小中一貫教育を検討・推進していく中で、学校規模の適正化や学校施設の改修時期を考慮して、小中一貫校や義務教育学校の設置について調査・研究します。

○今後の流れ

令和6年度 教育委員会および各中学校区で具体的な取り組みを協議
令和7年度 段階的に小中一貫教育を実施

学校区	本庄東中学校区	本庄西中学校区		本庄南中学校区	児玉中学校区		
形態	施設分離型	施設隣接型	一体型 (義務教育学校を含む)	施設分離型	施設分離型	施設隣接型	一体型 (義務教育学校を含む)
	 本庄東中学校 本庄東、藤田、仁手総合小学校	 本庄西中学校 本庄西、旭綜合小学校	 本庄西中学校 本庄西、旭綜合小学校	 本庄南中学校 本庄南小学校、北条小学校、中央小学校	 児玉中学校 児玉、金屋、秋平、井和綜合小学校	 児玉中学校 児玉、金屋、秋平、井和綜合小学校	 児玉中学校 児玉、金屋、秋平、井和綜合小学校
	小中学校が離れた場所にある	小中学校が隣にある	小中学校が同じ敷地内にある	小中学校それぞれが、離れた場所にある	小中学校が離れた場所にある	小中学校が隣にある	小中学校が同じ敷地内にある